

ひめぎん情報

Information from The Ehime Bank

SDGsの取り組みと
その達成にむけて



2022

初夏

No.299

CONTENTS

2022 初夏
No.299

ひめぎん情報

Information from The Ehime Bank

- 1 **SDGsの取り組みとその達成にむけて**
中田 婦美子／学校法人聖カタリナ学園 理事長

- 4 **「えひめ南予きずな博」について**
えひめ南予きずな博実行委員会（愛媛県観光国際課）

- 9 シリーズ 四国霊場を歩く(5)
江戸時代の宿泊事情と広がる聖地
胡 光／愛媛大学法文学部教授／四国遍路・世界の巡礼研究センター長

- 11 **地域商社『株式会社フレンドシップえひめ』について**
持続的な経済サイクルを創出し、飛躍的で豊かな地域の実現を目指して
友近 俊明／株式会社フレンドシップえひめ 代表取締役社長

- 16 **サステナブルファイナンスの広がりとお媛銀行の取組みについて**
村上 陽一／お媛銀行 ひめぎん情報センター 主任

表紙写真：滑床溪谷（宇和島市・松野町）
写真提供：えひめ南予きずな博実行委員会

SDGsの取り組みと その達成にむけて



学校法人聖カタリナ学園
理事長 中田 婦美子

学校法人聖カタリナ学園は、2015年に国連が提唱している国際社会の共通目標であるSDGs「持続可能な開発目標（17の目標）」の推進学園として、昨年、株式会社愛媛銀行様と地域及び地域産業の振興や文化の発展等に貢献するため、研究・教育等の分野において連携協力協定の調印を交わしました。このことは、かねてより大学と提携いただいております公開講座（風早の塾）にも、より良い成果をもたらすものであり、標記の目的達成のために誠に時宜を得たものであると考えています。

本学園は、ドミニコ会の宣教師により1924年にこの愛媛の地にミッション・スクールとして誕生し、間もなく創立100周年を迎えようとしています。現在設置している大学・短期大学部・高等学校3校及び幼稚園5園が、「愛と真理」の建学の精神の基に、将来の教育的使命を果たすため、このSDGsの目指す持続可能

な取り組みは、世界的視野にわたる教育的効果をもたらすものと考えます。この機会にカトリック教会の指針に基づき、本学園の取り組み等について述べたいと思います。

カトリック教会が求めるSDGsの理念と実践について

現在、世界に約13億人の信者を有するカトリック教会は、第1次及び第2次世界大戦において人類が体験した未曾有の試練を境に、1962年に開催された第2バチカン公会議において、現代世界が抱えるあらゆる問題に対して大きく舵を切り、正義と平和、貧困と差別、環境破壊と核兵器の問題等に真っ向から取り組んできました。特にその公会議文書における最終章「現代世界憲章」では、「教会は世界を人間の高貴な尊厳に一層相応しいものとし、より深い基礎を持つ世界的兄弟愛を求め、愛にかられた寛大な共同の努力

によって現代の緊急な要請に応えるものとなるよう、すべての人を助けることを目的としている。」(No.91)と明言しています。

歴代の教皇は、その路線を継承し、現在の教皇フランシスコは、国連総会での演説において、各国首脳に対してこのSDGsの目標達成のために、世界の貧困、戦争、格差増大などの諸問題を解決するために、地球という人類の家を守る責任と義務があることを訴え、気候変動の大きな原因は、富の過度な占有によるものであることを警告しています。また、教皇は、2019年に日本を訪問され、世界で唯一の被爆国である長崎と広島において、核兵器の使用も保有も人道的倫理に反することを強く主張されたことは記憶に新しいところです。この度のロシアによるウクライナへの武力侵攻は、国際社会に大きな衝撃を与えるものであり、犠牲となった多くの市民のために一日も早い平和の道が開けるように祈っています。本学園も教会のこれらの指針に倣い、人類により生じた負の遺産の回復のため、相互の連携によって目標達成に向けて努力する必要性を感じています。

聖カタリナ学園におけるSDGsの取り組みとその達成にむけて

本学園は、13世紀の聖ドミニコを創立者とする聖ドミニコ宣教修道女会を経営母体として、暗黒の中世時代といわれる

当時の教会と社会の光となったシエナの聖カタリナを学園の保護者と仰いでいます。聖カタリナの教える「Charity for Your Neighbours」(隣人への愛徳)は、本学のモットーとして、SDGsの根底にある現代的テーマに継承される精神であると考えています。その意味で、この公開講座「風早の塾」が、地域における文化的・学術的・健康と福祉等の相互交流によって、地方創生へ果たしてきた使命は大きいといえるでしょう。

大学では、世界のカトリック大学約40校が加盟している「聖トマス・アクィナス大学国際協議会」に加盟し、ドミニコ会の理念に基づく教育的共同研究・国際協力・学生の交換留学等の実施[SDGs 4]を検討しています。また、本学のボランティアセンター主催により「Table for Two」(2人のための食卓)という学生食堂における食費の一部を発展途上国の子供たちの給食支援に当てる国際貢献活動[SDGs 2]に参加しています。さらに松山市社会福祉協議会と本学が「災害時におけるボランティア活動に関する協定」を締結し、福島原発事故被災者の支援、西日本豪雨災害時のボランティア活動等を行いました。次に愛知県にある光ヶ丘女子高等学校においては、ジェンダー教育として、「竹の繊維由来のサステイナブル生理用品」について、国連大学で発表し未来教育機構主催「SDGs探

求AWARDS」で最優秀賞を受けました [SDGs 5]。また、同高校ではロシアによるウクライナへの武力攻撃に対する反戦運動として、全校生がひまわりの花を掲げ平和を訴え [SDGs16]、さらに、ウクライナで宣教活動をしているドミニコ会宣教師たちのために募金活動による支援の輪を広げています。次に愛媛県にあるロザリオ幼稚園では、愛媛トヨタ自動車株式会社様を通じてタイ北部ランパーン県の施設等に住む子供たちのために、衣類・絵本・文房具・ピアノ・カスタネットなどの楽器を送り支援の一助としています [SDGs 1]。

産官学による地方創生SDGsの取り組みと達成にむけて

今年度の公開講座（風早の塾）は、特にSDGsにおける地域及び地域産業の振興や文化の発展等に貢献するため、研究・教育・医療看護等、松山市を含めた産官学連携事業となっています。今年度新設した大学院看護学研究科による専門的知見に加え、松山赤十字病院様との連携を深めながら、地域の人々の健康と福祉に貢献できるものと期待しています。

大学及び短期大学部では、発展途上国にワクチンを送ることにつなげようと、ペットボトルのキャップを回収するエコキャップ活動を行い、看護学科ではオープンキャンパスにおいて、地域の方々に

発展途上国での手洗いプロジェクトの紹介等を行っています。このような公開講座等を通じて、地方創生への協力体制を強化し、癒しと地域包括ケアシステムによる「健康と福祉」[SDGs 3]に取り組み、「地域との連携パートナーシップ」[SDGs17]にも協力していきたいと思えます。

また、将来的に、地域の健康づくりの拠点として、年に一回程度、松山市駅キャンパス内にコーナーを設けて、健康づくりのためのイベントを実施するなど、看護学科の教員と学生が一丸となって健康福祉社会づくりに貢献したいと考えています。なお、この度のコロナ禍においては、感染症対策のために松山市からの派遣要請に応じ、看護教員を松山市保健所に派遣し、感染当事者や濃厚接触者の対応にあたりました。

最後に公開講座「風早の塾」は、その名の通り、当地の風土に相応しく、地域社会との文化交流の有意義な「塾」として活動してまいりました。ここに改めて株式会社愛媛銀行様のご厚意に感謝申し上げます。今後も「松山市を中心とする地域エネルギーで紡ぐ循環型世界」、「暮らしを支える生物多様性」、「国際協力」、「共生社会とスポーツ」、「医療看護と命のバトン」などの企画を通じて、本学園の「愛と真理」の精神の基に、SDGsの目標達成のための一助となりますことを願っております。

「えひめ南予きずな博」について

えひめ南予きずな博実行委員会（愛媛県観光国際課）

えひめ南予きずな博について

愛媛県では、南予地域の9市町及び関係団体とともに、平成30年7月豪雨災害で被災した南予地域の元気づけと、復興の過程で生まれた地域内外の人々との絆の強化や交流の持続的拡大を図るため、南予全域で「えひめ南予きずな博」を4月24日から開催しています。

新型コロナウイルスの感染拡大を受け1年延期となりましたが、延期を前向きに捉え、持続可能な地域づくりにつながる「仕組み・体制づくり」に向けた受入体制の構築や魅力づくりを昨年度プロログ的に実施してまいりました。

『南予から発信する「えひめシフト!!!」』をコンセプトに、密を避け豊かな自然の中で心や体のいやしを求めて訪れる人々、担い手が不足している農家の作業を手伝いに来てくれる人々など、様々な来訪目的やニーズに応じた受入体制の構築や魅力づくりを進めてきており、会期中に南予各地で行われる様々な取組みを通じて、南予の新たな魅力と力強く復興へ歩む地域の姿を発信していきます。



きずな博ポスター

オープニングイベント 「きずなサミット」について

きずな博の開幕初日となる4月24日には、これまでご支援頂いた全国の皆様への感謝の気持ちと、復興に取り組む南予の姿や“いやしのふるさと”として南予の魅力を発信するオープニングイベント「きずなサミット」を開催しました。

当日は約600名にご来場いただいたほか、当日の様相をWEBでも配信し、約5,000名の方にご視聴いただくなど、多くの方にご参加いただき、えひめ南予きずな博が無事に開幕できましたこと、改めて関係者の皆様にお礼申し上げます。

今回は、メインパーソナリティにやのひろみさん、和牛の水田さん、お笑いコンビバンビーノのお二人をお迎えして開催した「きずなサミット」の様子を一部ご紹介します。

きずなサミットは、チャリティーコンサートや復興支援CDプロジェクトへの参加など、音楽の力で南予の応援活動を行っている、うわじまアンバサダーのなかむらまさき村仁樹さんの尺八演奏で幕を開けました。

その後、南予9市町の市長・町長と知事による開幕宣言が行われ、関係者が一丸となってきずな博の盛り上げを呼びかけたほか、南予にゆかりのある方々からの応援メッセージも披露されました。



南予9市町の市長・町長と知事による開幕宣言

次に、南予地域の復興に向けて頑張っている地域団体の方から、きずな博におけるそれぞれの取組みを紹介いただき、えひめ南予きずな博の総合プロデューサーみやもと倫明さんとの対談を行っていただきました。

①防災・減災の取組みを行っている宇和島NPOセンター 谷本友子さん、U.grandma Japan (ユーグランマジヤパン) 松島陽子さん。

②ゲストハウスの取組みを行っているentohouse (エントハウス) BAR&GUESTHOUSE (バーアンドゲストハウス) シーバース玲名さん。

③ワーケーションの取組みを行っているミカタスイッチ株式会社 納堂邦弘さん。



ミカタスイッチ株式会社 納堂邦弘さんによるワーケーションプロジェクト紹介

④ユニークステイの取組みを行っている瀬戸アグリトピア 楠本博貴さん。

⑤道の駅グルメスタンプラリーの取組みを行っている道の駅広見森の三角ぼうし 松本周作さんと、

⑥道の駅みなとオアシス八幡浜みなと 木村謙児さん。

⑦バーベキューでまちおこしの取組みを行っているてまひままつのバーベキュー協会 山下武久さん。

⑧ライブコマースを行っている株式会社クリエ 出口友子さん。

⑨絶景ドローンサービスを提供している愛南マリンサービス 高橋翔さん。

⑩インバウンド受入れの取組みを行っている(一社)キタ・マネジメント 建

築文化研究所 デイエゴ・コサ・フェルナンデスさん。

11名の方に、それぞれの取組みの内容と、きずな博への思いを語っていただきました。

「きずなサミット」の最後には、チャリティーコンサートの開催により南予の復興を支援してくださっている愛媛・伊予観光大使のピアニスト黒田映李^{くろだ えり}さんによるピアノ演奏と、昨年実施のクラウドファンディングで実現したプロジェクトの一つであるジャパハリネットAC（アコースティック）が制作したきずな博応援ソングも披露されました。



ジャパハリネットAC（アコースティック）によるきずな博応援ソングの披露

えひめ南予きずな博会期中の取組みについて

12月までの約8か月間が会期となっているきずな博では、様々なプロジェクトを実行していきます。すでに進行中のプロジェクトも合わせて、今年の夏にお楽しみいただける取組みをご紹介します。

まず、宇和島市、大洲市、内子町、伊方町、愛南町では、仕事をしつつ、家族と自然豊かな南予で感動と経験、時間を共有することができる「ファミリーワー

ケーション」を体験することができます。



廃校を活用したコミュニティスペース「みそぎの里」（内子町）

また、宇和島市、西予市、内子町、伊方町、松野町では営む人のアイデアや思いが詰まった南予の宿での特別な宿泊体験「ユニークステイ」が展開されています。



「瀬戸アグリトピア」では、ヘラクレスオオカブトの卵か幼虫をゲット（伊方町）

さらに、宇和島市、松野町、愛南町では、シーカヤック、キャニオニング、シーウォーカーといった体験を楽しむ様子や南予の絶景をドローンで動画撮影し、旅の思い出として持ち帰ることができる「絶景ドローンプロジェクト」を実施しています。

この夏は南予に出かけ、大人も子どもも心踊る一生ものの体験をしてみたいかがでしょうか。

このほか、きずな博のシンボルイベントとしては、8月に大洲市で、肱川の河



日本屈指のキャニオニングスポットで、体験の思い出をドローンで撮影（松野町）



南予の各スポットで手軽に予約（Web予約も可）、レンタルできる「E-BIKE」



スマートフォンで「ARデジタルガイド」を体験（宇和島市・八幡浜市・大洲市・松野町）

川敷をステージに音楽ライブを楽しむ「肱川さんのおもてなし」を開催します。また、地域の先人たちへの感謝と鎮魂、未来への願いを込めた灯籠流しも行います。

これらのイベントを含め、きずな博では南予各地で様々な取り組みを実施しますが、会期中、南予を巡る際におすすめなのが、「えひめいやしの南予デジタルフリーパス」と「道の駅グルメスタンプラリー」です。



「肱川さんのおもてなし」での灯籠流し（大洲市）

「えひめいやしの南予デジタルフリーパス」とは、JRやバスが乗り放題となるお得なデジタルフリーパスをスマートフォンで購入し、購入したパスの画面を見せるだけで、様々な公共交通機関をシームレスに利用できるサービスです。



南予各市町にてスマートフォンでスムーズに、お得に移動できる「えひめいやしの南予デジタルフリーパス」

「南予全域フリーパス」「内子・大洲町並散策1日パス」「宇和島バス全線フリーパス」など、旅の目的に合わせて購入が可能ですので、南予を訪れる際にはぜひご利用ください。

「道の駅グルメスタンプラリー」では、「八幡浜みなと」や「みしょうMIC」などの7つの海側の道の駅が「宇和海道七駅物語」として連携し、地域の特産品などを使ったオリジナルじゃこ天を販売しています。また、「日吉夢産地」や「広

見森の三角ぼうし」などの山側の8つの道の駅で、四万十鶏をテーマに実施する「奥伊予・四万十街道」と連携して、南予の特産品が当たるスタンプラリーを実施しています。こちらもきずな博の開催期間を通して実施していますので、様々な道の駅を巡って道の駅のグルメをお楽しみください。



ハモのすり身で作った八幡浜みなっつとアゴラマルシェの「だんごはも兄弟」(八幡浜市)



真鯛を使ったみしょうMICの「愛南真鯛じゃこ天」(愛南町)

このほか、道の駅の実施団体としては、7月から8月にかけて「内子フレッシュパークからり」や「小田の郷せせらぎ」など南予各地の道の駅で、南予の姉妹都市や関係都市などの県外の特産品を並べた「出張！全国うまいもん物産展 in南予」を開催します。愛媛にいなながらも、全国各地の特産品を味わうことができますので、こちらもぜひお楽しみください。

今回はご紹介できませんでしたが、他にも、南予地域の住民団体が中心となって提供している、自然体験をはじめとした南予の魅力を体験できる「南予いやし体験プログラム」や、地元市町などが主体となって開催予定の「きずな博連携イベント」など、南予の魅力を存分に味わっていただける取組みを実施していますので、ぜひ、会期中に南予へ足を運んでみてください。

公式ホームページ、SNSについて

最後になりますが、きずな博公式ホームページ（二次元コード参照）では、きずな博のコンセプトや皆様にお楽しみいただけるイベント・プロジェクトについての最新情報はもちろん、南予に移住して活躍されている方の声をリアルに届けるインタビュー動画等を随時更新しておりますので、ぜひご覧ください。



公式ホームページ

また、公式Facebookと公式Twitterでは、きずな博の最新情報をいち早く更新し、公式Instagramでは、南予地域の魅力を写真でお届けしていますので、こちらもチェックしてみてください。



公式Facebook



公式Twitter



公式Instagram

江戸時代の宿泊事情と広がる聖地



愛媛大学法文学部教授
四国遍路・世界の巡礼研究センター長
胡 光
(えべす ひかる)

四国の宿泊事情

津屋崎村（福岡県福津市）の豪商佐治家一行7人が、弘化2年（1845）に行った四国遍路の記録「四国日記」（佐治洋一氏蔵、福岡県立図書館保管）を読み進めます。船で三津浜に上陸し、太山寺を打ち初めに四国を北上、55日で一周します。日記には、日々の歩いた距離、札所数、接待数、宿泊場所、費用、食事などが詳細に記録されており、本稿では、四国の宿泊事情について考えてみます。

四国に入ると、毎日のように接待が記録されるものの、土佐国（高知県）では接待が一切見られません。宿泊においても、「庄屋から許可がないと宿借できない。窮屈な所だ」との記述があり、土佐藩の規制が厳しいことがうかがえます。宿泊の許可制、接待や脇道の禁止が命じられ、予定の日数で領内を通過することが求められていたのです。このことは、伊予国に入ると「良人多し」という印象につながるものでした。

四国内56泊のうち、宿屋を含む商家に22泊、百姓家に32泊、堂宇に2泊しています。接待の一種に善根宿があり、無料で泊まることができました。善根は15泊もありまし



仙龍寺（三角寺奥之院）の通夜堂

た。この他、取引先の間屋と知人宅、及び三角寺奥之院（仙龍寺／四国中央市）の通夜堂の計3泊も宿代は記載されていません。意外にも、讃岐国粟井村（香川県観音寺市）の大師堂では、宿代・食事代とも支払っています。

前号で紹介した、六十四番札所前神寺（西条市）を出た後、六十五番札所三角寺（四国中央市）を拝します。三角寺も山間にありますが、さらにここから、難所を越えて参詣した山奥の三角寺奥之院は、「女人高野」の信仰を集め、700～800人が通夜していたと言うから驚きです。高野山に似たこの場所は、女人禁制の高野山に替わって、女性が参拝でき、四国遍路が必ず訪れる場所でした。寺内に米・薪・吸物店があったと記されます。

善根の場合、宿代（木賃）が無料になるのであって、食事代（米代）、布団代、蚊帳代など必要経費は支払います。宿代は銭15文が相場で、畿内からの上陸地阿波撫養と讃岐金毘羅の宿代は2倍以上の高値ですが、それ以外の地では商家でも百姓家でも大差なく低額です。それに比べて、約66文の食事代の方が高額であり、善根宿であっても相当な経費がかかりました。善根宿を訪ねたが留守だったという記述もあることから、案内本によって情報を得て善根宿を探しているようです。

3月24日には、第七十番札所本山寺（香川県三豊市）の茶堂で接待を受けたとき、女性2人が善根を申し出たので同道したところ、1里（約4km）も離れた田舎で難儀し、同行24人が下高野村にある3軒のあばら家に分かれて泊まったとあります。善根を申し出る者があり、夜半に大勢の遍路を

連れて歩いている一行があったのです。

「みなあばら家」の表現は極端としても、善根に限らず、布団や蚊帳が無いなど江戸時代の宿泊事情は必ずしも良好ではありませんでした。宿泊は、遍路自身にとっても、見知らぬ客人を迎える四国の人々にとっても困難なことで、その困難をおしても遍路や接待を続ける深い信仰と文化が四国に根付いていました。

広がる聖地

三角寺奥之院仙龍寺のように、札所以外でも必ず遍路が立ち寄る聖地がありました。次に訪れた讃岐国（香川県）では、金毘羅大権現（琴平町）と法然寺（高松市）、白鳥神社（東かがわ市）がこれにあたります。

金毘羅では、61年ぶりの宝物開帳が行われていて、一行が遍路に来た理由のひとつはこれを見ることでした。この年の遍路者数は多く、周辺の寺社でも合わせて開帳が行われていました。門前町が長く大店が多いと繁栄している様子が記されます。大門の前には、現在も続く名物の飴屋があり、門をくぐると備前国（岡山県）の商人が接待をしていました。

石段・燈籠・玉垣は限りなく、船絵馬も多数ありました。本社を参詣し、熊手・金幣を授かります。書院で開帳された金工細工の宝物はおびただしく、その前に米・炭俵の寄進が高く積まれ、玄関でお守りを受けます。

宿に戻って休んでから、芝居小屋へ行きます。軽業や馬芸などを見た後、再び宿で休み、夕方には歌舞伎大芝居を見に戻りました。大坂道頓堀が火災のため、有名な役者がここに集い、好評を博していました。



国指定重要文化財 金毘羅大芝居（金丸座）

開帳の10年前、天保6年（1835）に完成した芝居小屋は、現存最古の小屋として国の重要文化財指定を受けています。今でも春に松竹の定期公演が行われ、人々が心待ちにしています。

金毘羅は、七十五番善通寺に近く、七十一番弥谷寺を加えた三カ所参りが広く知られていました。

一方で、八十三番一之宮から、遍路道とは逆方向に進む法然寺へも人々は向かい、遍路用の道標も残っています。讃岐国へ流された法然上人ゆかりの寺を、高松初代藩主松平頼重がこの地に移し、菩提寺としたもので、法然上人二十五霊場のひとつとしても知られます。現在では極楽浄土を模した寺域が国指定史跡になっています。



国史跡 法然寺

この地に来た時、高松藩主の参詣に出会います。茶屋でしばらく待ち、名物のそうめんを食しました。さらに、お殿様ご一行の弁当が余ったため、いただいたというのです。時代劇でよく見かける、土下座で顔を上げられないというかしこまった様子はなく、お供衆に囲まれたお殿様と、立派な三つ葉葵紋をつけた馬を拝しています。

四国霊場は、多様な宗教・宗派が集まって成り立っています。さらに、その道程に有名な聖地を加えることで、聖なる島・四国が演出されていたのです。

【参考文献】

伊予史談会『四国遍路記集』伊予史談会双書、1981
塚本明・近藤浩二・胡光「巡礼と『道中日記』の諸相」『2013年度四国遍路と世界の巡礼公開講演会・公開シンポジウムプロシーディングズ』
愛媛大学「四国遍路と世界の巡礼」研究会、2014
愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター編『四国遍路の世界』ちくま新書、2020

地域商社『株式会社フレンドシップえひめ』について

持続的な経済サイクルを創出し、
飛躍的で豊かな地域の実現を目指して



株式会社フレンドシップえひめ
代表取締役社長 友近 俊明

社 名：株式会社フレンドシップえひめ
本社所在地：愛媛県松山市勝山町2-1
愛媛銀行本店内2階
設 立 日：令和3（2021）年11月1日
資 本 金：30百万円



『フレンドシップえひめ』のロゴマーク

愛媛発のフレンドシップで、友情を育みながら地域の価値を磨き・創り・伝え、「新たな商品」で「新たな価値」を生み出すために船出をイメージしています。

1. (株)フレンドシップえひめ設立の背景

愛媛県は、三方を海に囲まれ、温暖で豊かな自然に恵まれた環境にあり、柑橘や鯛に代表される全国ブランドの農産物・海産物を有し、造船、繊維、製紙など工業も盛んで、今治タオルなどは世界ブランドに成長しています。一方、少子化の進行や大都市圏への人口流出によって、県内人口は減少傾向が続き、とりわけ、山間部・島嶼部では過疎化に加え高齢化の進行が著しく、地域経済の持続的発展は一層困難な状況になっています。

さらに、平成30（2018）年7月の西日本豪雨災害では、南予地域を中心に農林業が甚大な被害を受け、なお復興の途上であり、令和2（2020）年の春先からの新型コロナウイルス感染症の拡大により、インバウンドの観光客が大幅に減少し、愛媛を訪れて愛媛の良さを実体験してもらう機会が失われ、さらに他県との往来自粛によって大都市圏での販路開拓も難しい状況が続きました。

そのような中、「ふるさとの発展に役立つ銀行」を経営理念に掲げる愛媛銀行では、県産品の販路拡大等への取り組みを模索し、お取引先などから情報収集を開始しました。そしてアライアンスに係る様々な協議を経て、セキ株式会社（代表取締役社長 関 宏孝）と南海放送株式会社（代表取締役社長 大西 康司）との間で、県産品の販路拡大支援を主たる目的とする地域商社事業を立ち上げることで合意に至り、令和3（2021）年3月31日に「地域商社設立に向けた協定書」を締結。令和3（2021）年11月1日に「株式会社フレンドシップえひめ」（以下、「当社」）が設立され、私が社長に就任させていただきました。

金融の愛媛銀行、情報・出版・印刷のセキ、マスメディア・情報の南海放送といった異業種連携による地域商社は四国でも初めての取り組みになります。



本格事業開始の記者発表 令和4（2022）年4月21日
左から、南海放送(株)大西社長、(株)愛媛銀行西川頭取、(株)フレンドシップえひめ友近社長、セキ(株)関社長

2. 銀行業高度化等会社の認可

当社は、愛媛銀行の目指す地域プラットフォームの次世代モデルの旗手の一つに位置付けられています。具体的には、異業種間により会社を設立し、県内事業者の持続的な成長を後押しするなど地域経済の活性化に貢献するために、ネットショップやカタログギフトによる販売代行や購入型クラウドファンディング運営代理等を通じ、県内事業者様のマーケティングや販路拡大に対する支援を事業化するものです。

当社の設立にあたり、愛媛銀行が5%を超える議決権を取得することから、銀行法第16条の2第7項（及び銀行法施行規則第17条の5の2第1項）に定める銀行業高度化等会社として、議決権取得の認可を愛媛銀行が金融庁に申請し、令和3（2021）年10月15日に認可を受けました。



本格事業開始に向けた協議の一場面

3. 目指す事業について

当社は、愛媛県の様々な地域資源の魅力や価値を再発見し、磨き上げ、多くの人々にお届けすること、また県内事業者の販路拡大を支援することを通じて、県内事業者の収益機

会を創出・拡大し、持続的な経済としてグッドサイクルを生み出すことを目的としています。

そのイメージは、地域メディアや自治体、モノ・商品、作り手、販売、あるいは文化歴史といった多様なコンテンツを上手くマッチングさせながら、えひめの価値創造に結び付けていくというものです。



グッドサイクルのイメージ図

当社の事業は、(1)ネットショップやカタログギフトによる県産品の販売支援事業、(2)商品開発や販路拡大等、マーケティング支援に係るコンサルティング事業、(3)起業支援や商談会等の受託事業を3つの柱にしています。

4. 「22_Ehime」について

本格始動を開始した当社が運営するのが、「22_Ehime」というネットショップとカタログギフトによるサービスです。



当社が運営するサービス「22_Ehime」のロゴマーク

「22_Ehime」には、新しい概念や価値観によって、人と人、人とモノ、発見やアイデアがつながっていく様を「22 (to to)」と表現し、そうして生まれたさまざまなつながりから、22世紀にまで残したい愛媛のいいものやトピックスを、キュレーションメディア^{*1}として発信していきます。

そこでは、「新しい価値との出会い」から始まる5つのプロセスにより、優れた県産品等の流通を22_Ehimeで展開していきます。

^{*1} 1. キュレーションメディア 収集した情報を特定のテーマに沿って編集し、新たな意味や価値を与えるメディア

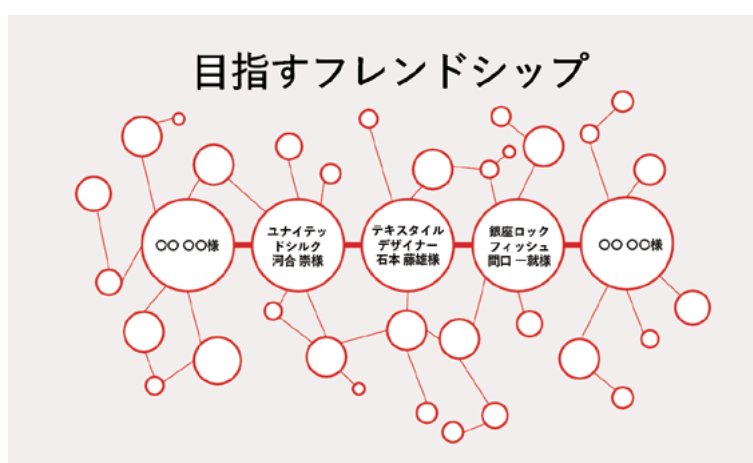
- ① 新しい価値に出会う
- ② 新しいフレンドシップ（キュレーショングループ）による商品セレクトや商品開発
- ③ 生産者の人生観やストーリーに賛同して買う
単なる“消費”ではない、作り手を応援する、そうすることで味が変わる、食べることや使うことの価値が変わる
- ④ 作り手を応援するプラットフォーム
Ex. 買うことは応援すること、一部クラウドファンディング形式での商品開発
- ⑤ あまり流通していない地産品を買うことができる（プレミアム）
Ex. 地元だけに流通している、生産者だけが食べられるなど、限定的な特別感

「新しい価値との出会い」から始まる5つのプロセス

そこで提供する価値は、全国に通用する作り手のグループ形成と、そこから広がるコミュニティによって選ばれた商品であり、さらに新しいフレンドシップに繋げていく事にあります。その為に異業種の生産者、作り手を中心としたキュレーショングループを形成し、キュレーターがつくる商品や選んだ、または開発した商品などを揃えていくことです。

その第1弾として、世界的に知られるデザインハウス マリメッコのテキスタイルデザイナーとして、永くフィンランドで活躍されていた石本藤雄氏をはじめ、シルク専門家の河合崇氏、東京銀座で人気のハイボール店を経営する間口一就氏など、多彩な顔触れの方々にキュレーターになって頂きました。

キュレーターの皆さんには独自の人脈があり、点と点を繋いでいながら、目指すフレンドシップを完成させます。



当社が目指すフレンドシップ

5. 今後の事業について

令和4（2022）年3月22日にネットショップ「22_Ehime」がオープンしました。キュレーターや作り手を中心とした構成と消費者目線に合わせたインターフェイスで、91ア

アイテム^{※2}の商品を掲載中ですが、おかげさまで多くの掲載依頼があり、商品の充実を図っております。

続く第2弾として発売するのが、カタログギフトです。ネットショップはBtoC、カタログギフトはBtoBを中心に販売を進める方針です。



ネットショップ「22_Ehime」のトップ画面

QRコード



カタログギフトの表紙

コンサルティング事業では、購入型クラウドファンディング運営代理業を通じた認知度向上、マーケティング調査と調査結果をうけた商品の改善提案やブランディングなど事業者様のマーケティング活動を支援したいと考えています。

受託事業では、愛媛県や県内自治体の販路拡大事業等の受託に加え、地域活性化につながる企画を提案し、地域経済の発展の起爆剤となるような活動に積極的に取り組みたいと考えています。

6. 最後に

県内事業者さまに対し、商品の発掘・開発から販売に至るまで、当社がワンストップで支援し、県産品の販路拡大と収益力の強化に貢献してまいります。

また、新規事業の立上げの際には、当社のネットワークを活用して、様々なサポートや有益な情報・ノウハウを提供し、お客さまの円滑な事業遂行を後押しします。そして、全国に対して県産品の魅力をアピールし、県産品の販売を拡大することで、地域経済の持続的発展に貢献してまいります。

※ 2. 令和 4 (2022) 年 4 月 21 日 現在

サステナブルファイナンスの広がり と愛媛銀行の取組みについて



愛媛銀行 ひめぎん情報センター
主任 村上 陽一

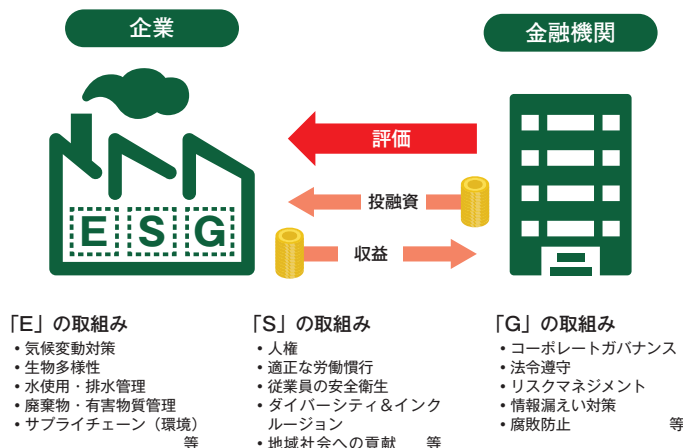
はじめに

近年、持続可能な開発目標（SDGs）や脱炭素化への関心の高まりとともに、サステナブルファイナンスにも注目が集まっています。SDGsの達成や脱炭素化には多額の資金が必要とされ、政府等の公的資金だけで対応するのは困難と言われています。そこで、これらの達成に向けて、民間資金の役割に期待が高まっているところです。本記事では、サステナブルファイナンスのうち、特にグリーンローンとサステナビリティ・リンク・ローンに焦点を当てるとともに、愛媛銀行の取組み（サステナブルファイナンス商品）についてご紹介いたします。

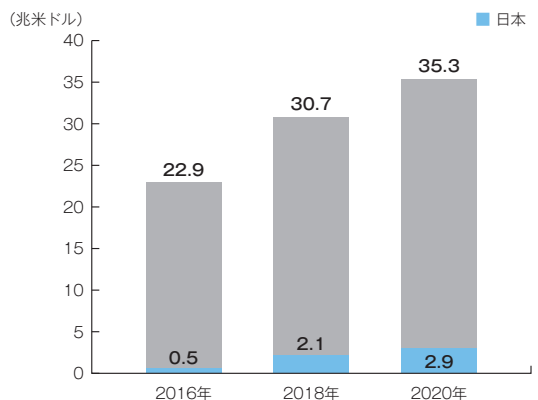
サステナブルファイナンスの動向

サステナブルファイナンスとは、全国銀行協会によると、「持続可能な社会と地球を実現するための金融」と解釈され、環境（E）、社会（S）、ガバナンス（G）課題の解決を目指して、様々な配慮を織り込んだ投融資（ESG投資・ESG金融）、債券発行、その他様々な幅広い金融サービスがこれに該当するとされています。ESG課題への投資は、2006年に国連の責任投資原則（PRI）が、投資判断にESGを組み込むことや、企業に対してESG対応の開示を求めること等を提唱したことで広く認知されるようになりました。現在では、2015年に提唱されたSDGsや2016年に発効したパリ協定等を受け、ESGの視点を考慮して

ESG投資の概念



世界のESG市場



(出所) 環境省公表資料をもとに作成

投融資を行い、環境・社会的な課題の解決につなげようとする動きが、世界的な潮流となっています。環境省のまとめによると、2016年時点で22.9兆ドルであった世界のESG市場は、2020年には35.3兆ドルと4年間で1.5倍にまで拡大しています。国内においても、2016年時点0.5兆ドルだったESG市場は、その後4年で5.8倍の2.9兆ドル（2020年）まで拡大しています。これは、日本国内の全運用額のうち、約24%を占める規模です。

グリーンローン、サステナビリティ・リンク・ローン

グリーンローンやサステナビリティ・リンク・ローンも先述のESGの視点を考慮した融資の一種であると考えられます。

環境省の解釈によると、グリーンローンとは、企業等の借り手が、国内外のグリーンプロジェクトに要する資金を調達する際に用いられる融資です。具体的には、①調達資金の用途がグリーンプロジェクトに限定され、②調達資金が確実に追跡管理され、③それらについて融資後のレポートを通じ透明性が確保された融資であると定義されています。主な資金用途の例として、再生可能エネルギーに関する事業（太陽光、風力、水力、バイオマス発電等）、省エネルギーに関する事業（建物の省エネ改修）、自然資源・土地利用の持続可能な管理に関する事業（持続可能な農林水産業）等が考えられます。

サステナビリティ・リンク・ローンとは、借り手が野心的なサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット（SPTs）を達成することを奨励する融資です。具体的には、①借り手の事業におけるサステナビリティ目標とSPTsとの関係が整理され、②適切なSPTsを事前に設定してサステナビリティに関する改善度合を測定し、③それらに関する融資後のレポートを通じ透明性が確保された融資であると定義されています。SPTsの具体例では、温室効果ガス排出量の削減、再生可能エネルギーの生産・使用量の増加、持続可能な原材料・供給量の増加、女性活躍の推進等が考えられます。また、グリーンローンとは異なり、資金用途が限定されません。

これらの融資を活用することで、借り手側、貸し手側の双方に様々なメリットが生まれます。一例を挙げると、借り手側は、本融資を通じてサステナビリティ戦略やリスクマネジメント、ガバナンス体制が整備されるため、サステナビリティ経営の高度化につながると言われています。加えて、本業を通じた環境・社会課題への取組みに積極的な企業であると広く世間にアピールすることも可能です。また、これらの融資には、金利変動のインセンティブ等、借り手にサステナビリティ経営を促す仕掛けが施されているため、借り手

「グリーンローン、サステナビリティ・リンク・ローンの比較」

	グリーンローン (GL)	サステナビリティ・リンク・ローン (SLL)
資金用途	グリーンプロジェクトに限定	資金用途が限定されない
主な投資家／資金提供者	主に銀行をはじめとする金融機関	主に銀行をはじめとする金融機関
レポート	<ul style="list-style-type: none"> 貸し手に報告すべきである。 GLであることを表明する場合には、一般に開示すべきである。 中小企業の場合、概要のみを示すことも可。 	<ul style="list-style-type: none"> 貸し手に報告すべきである。 SLLであることを表明する場合には、一般に開示すべきである。 中小企業の場合、概要のみを示すことも可。
外部レビュー	<ul style="list-style-type: none"> 外部レビューの取得を奨励。 要件を満たした上で内部レビューでも可能。 レビュー結果は貸し手に報告すべきである。 一般に開示することも奨励。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部レビューの取得を奨励。 要件を満たした上で内部レビューでも可能。 レビュー結果は貸し手に報告すべきである。 一般に開示することも奨励。

(出所) 環境省公表資料をもとに作成

側の金利負担の軽減だけでなく、貸し手側にとっても、借り手の企業価値の向上、キャッシュフローの安定化につながる可能性があります。こうした利点が認められ、今日のサステナブルファイナンス拡大の一助となっています。

愛媛銀行の取組み

このような動向を受け、当行では2022年4月より、新たにサステナブルファイナンス3商品（ひめぎんグリーンローン、ひめぎんサステナビリティ・リンク・ローン、ひめぎんサステナブル・サポートローン）の取扱いを開始しました。このうち、「ひめぎんグリーンローン」および「ひめぎんサステナビリティ・リンク・ローン」は、外部機関の評価を必要としない当行が評価する「自行評価型」も選択いただけますので、費用負担を抑える形で、より幅広いお客さまにサステナブルファイナンスをご活用いただける商品設計となっています。なお、自行評価型は、外部評価機関より国際的な原則等に整合的である旨のセカンドオピニオンを取得しています。

「サステナブルファイナンス商品概要」

商品名	ひめぎんグリーンローン		ひめぎんサステナビリティ・リンク・ローン		ひめぎんサステナブル・サポートローン
	自行評価型	外部評価型	自行評価型	外部評価型	
資金用途	グリーンプロジェクトに必要とする資金		SPTs目標の達成に必要な資金		SDGs目標の達成に必要な資金
融資金額	当行所定の条件に基づく取扱い		当行所定の条件に基づく取扱い		当行所定の条件に基づく取扱い
融資利率	当行所定の利率		当行所定の利率 (目標の達成状況に応じて金利変動)		当行所定の利率
取扱手数料	当行所定の手数料が必要		当行所定の手数料が必要		当行所定の手数料が必要
目標の評価	当行評価	外部機関評価	当行評価	外部機関評価	当行所定の条件（宣言実施等）

※外部評価型については、外部機関の評価手数料が必要となります。

※ひめぎんサステナブル・サポートローンは、SDGs経営立ち上げ支援サービスを通じた、SDGs経営・宣言の実施などを条件に、お客さまのサステナブル経営ビジョンに応じて、ご相談に応じます。

まとめ

国内では間接金融による資金調達割合が大きいいため、サステナブルファイナンスの拡大には、地域金融機関を中心とした取組みが重要であると言われています。当行では、先ほどのグリーンローン、サステナビリティ・リンク・ローンのほかにも、グリーンボンドや国の利子補給制度を活用した融資・リース等、幅広いニーズにお応えできる金融サービスやESG/SDGs支援体制を整えておりますので、各支店までお気軽にご相談ください。当行は、これからもお客さまのサステナブル経営を後押しするとともに、持続可能な地域社会の実現に向けて取り組んでまいります。

【参考・引用文献】

- ・環境省「グリーンボンドガイドライン グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン2020年版」
- ・（一社）全国銀行協会「はじめてのサステナブルファイナンス 金融の力で地球のピンチを救おう！」

ひめぎん情報 2022初夏号 No.299

発行／株式会社 愛媛銀行 ひめぎん情報センター
〒790-8580 松山市勝山町2丁目1番地
TEL (089) 933-1431

印刷／ニンジニアネットワーク株式会社
〒799-3101 愛媛県伊予市八倉310番地2
TEL (089) 927-2288

世界一強い
ボクサーになる

ボクシング
飯尾陽菜
IIO Hina



世界一になる!

ゴルフ
松井颯空海
MATSUI Rikuo



将棋の魅力を
沢山の人に
広めたい!!

将棋
宮本弥吹
MIYAMOTO Yabuki



観客に
感動を与えられる
踊り手に

バレエ
小林らむ
KOBAYASHI Ramu



日本代表に
選ばれる!!

ライフル射撃
東晴七
AZUMA Hana



ひめぎんは、
ゆめぎん。

みんなの夢を応援します。

 愛媛銀行



／ 毎日の暮らしをアップデート ／

ひめぎんアプリ

愛媛銀行の各種サービスがアプリから! ご利用がますます便利に!
セキュリティ強化でより安心して使えるようになりました。

NEW 定期預金預入・解約

NEW 振込

NEW キャッシュカード
利用限度額変更

残高照会・入出金明細

公営競技・スポーツくじ

入出金プッシュ通知

ポイント倶楽部照会・交換

住所・電話番号変更

通帳レス口座切替



ひめぎん 愛媛銀行

今すぐ!ダウンロード

ひめぎんアプリ 検索

(2022年6月13日現在)

